



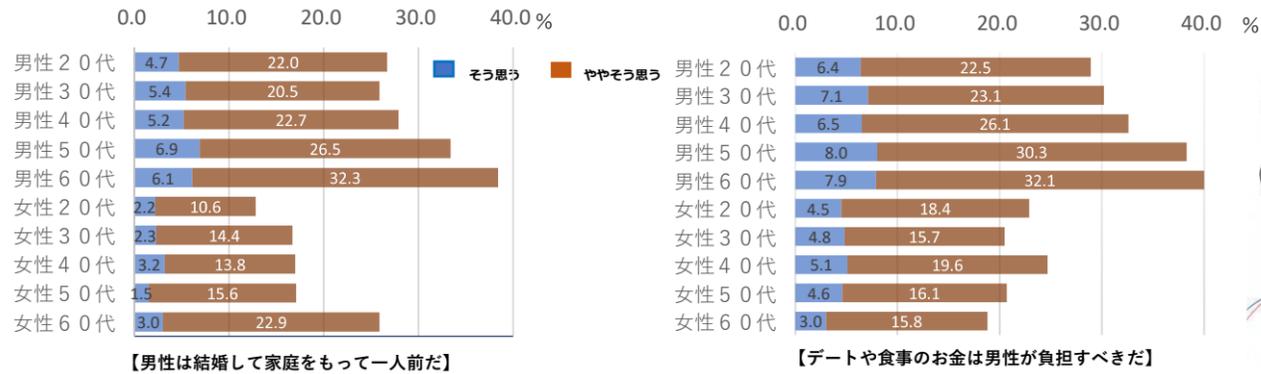
# 「アンコンシャス・バイアス」を知っていますか？

「アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）」とは、「自分自身は気づいていないものの見方やとらえ方のゆがみや偏り」をいい、自分自身では意識しづらく、ゆがみや偏りがあるとは認識していないため、「無意識の偏見」と呼ばれます。しかし、「アンコンシャス・バイアス」という言葉の認知度はわずか21.4%に留まります。内閣府による「令和4年度 性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）に関する調査研究」結果から見てくることとは…？

性的役割意識<性・年代別> (表1)

- 「男性は結婚して家庭をもって一人前だ」「デートや食事のお金は男性が負担すべきだ」とも、「そう思う」傾向がいずれの年代でも男女間で大きな差があるが、男性間においても20代と60代で大きな差がみられる。

表1 性別役割意識<性・年代別>



出典：内閣府 令和4年度 性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）に関する調査研究

性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験 (表2)

- 性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験について、「直接言われた」あるいは「言動や態度から感じた」経験は男性より女性の方が、「経験がある」と回答している割合が高い。
- 上位に入っている項目をみると、男性は主に、「家庭」項目であるのに対し、女性は「家庭」「職場」「その他」と多岐にわたっている。

表2 性別に基づく役割や思い込みを決めつけられた経験（「直接言われた」あるいは「言動や態度から感じた」経験）

男性 上位10項目 (%)			女性 上位10項目 (%)		
1	デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	家庭 29.4	1	育児・家事は女性がすべきだ	家庭 40.8
2	男性は仕事をして家計を支えるべきだ	家庭 29.1	2	女性は感情的になりやすい	その他 36.2
3	男性は結婚して家庭をもって一人前だ	家庭 28.7	3	受付、接客・対応（お茶出しなど）は女性の仕事だ	職場 34.9
4	家庭・育児は女性がすべきだ	家庭 26.9	4	親戚や地域の会合で食事の準備や配膳するのは女性の役割だ	家庭 34.7
5	女性は感情的になりやすい	その他 26.6	5	男性は仕事をして家計を支えるべきだ	家庭 34.6
6	家を継ぐのは男性であるべきだ	家庭 26.4	6	職場での上司・同僚へのお茶くみは女性がする方がよい	職場 33.4
7	男性は人前で泣くべきではない	その他 25.7	7	家を継ぐのは男性であるべきだ	家庭 32.9
8	女性はか弱い存在なので、守られなければならない	その他 25.1	8	共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病するべきだ	家庭 32.5
9	女性には女性らしい感性があるものだ	その他 24.6	9	男性は結婚して家庭をもって一人前だ	家庭 31.7
10	受付、接客・対応（お茶出しなど）は女性の仕事だ	職場 23.7	10	デートや食事のお金は男性が負担すべきだ	家庭 31.1

出典：内閣府 令和4年度 性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）に関する調査研究

## 「女性に対する暴力をなくす運動」

毎年11月12日～11月25日は「女性に対する暴力をなくす運動」期間です。当サロン内でも「DV防止啓発ミニコーナー」「DV防止啓発パネル展」などの啓発コーナーを設け、女性に対する暴力の根絶を訴えました。



「DV防止啓発ミニコーナー」展示の様子



「DV防止啓発パネル展」展示の様子

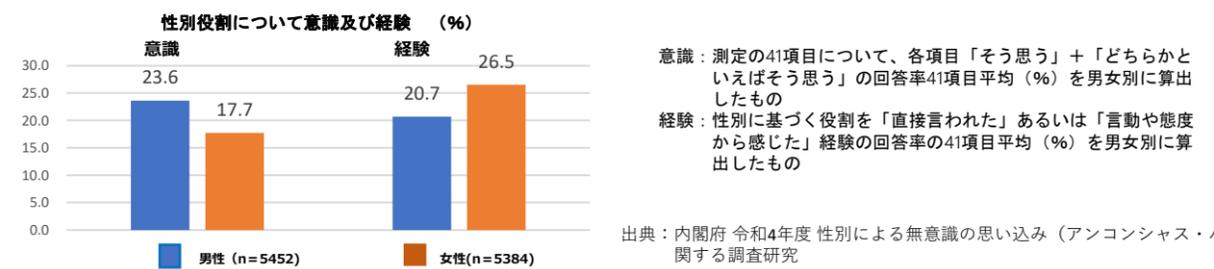


パープルリボンには、女性に対するあらゆる「暴力をなくしていこう」とのメッセージが込められています。

性別役割意識・経験Ⅰ（男女差でみえるアンコンシャス・バイアス）(表3)

- 全項目平均では、性別役割の意識は男性が強い一方で、「直接言われた」又は「言動や態度から感じた」経験は女性の方が多い。
- 男性は女性と比べて、性別に基づく役割を「直接言われた」、あるいは「言動や態度で間接的に接した」経験は少なく、伝統的な役割観に自身がとらわれていることに気づいていない可能性がうかがえる。

表3 性別役割意識・経験Ⅰ（男女差でみえるアンコンシャス・バイアス）



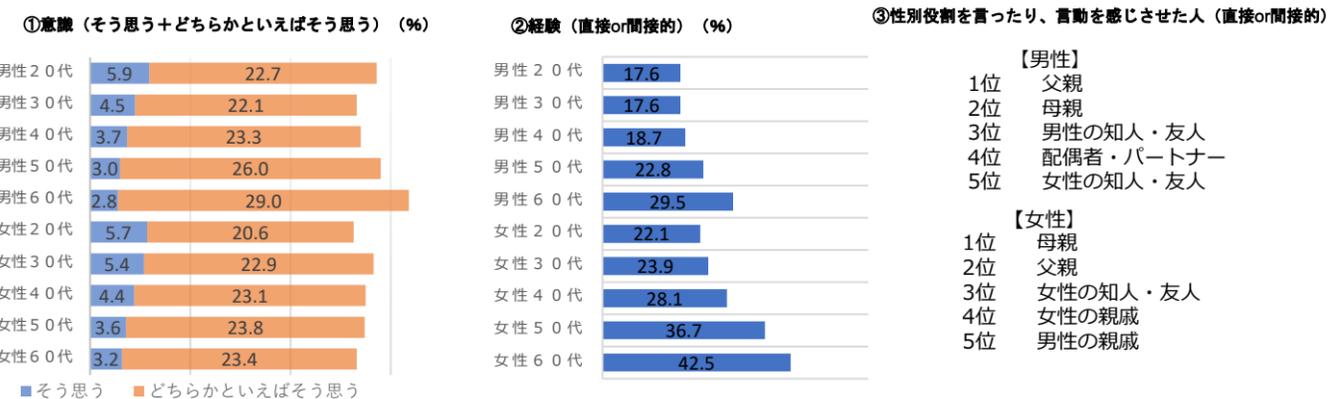
意識：測定41項目について、各項目「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の回答率41項目平均 (%)を男女別に算出したもの  
経験：性別に基づく役割を「直接言われた」あるいは「言動や態度から感じた」経験の回答率の41項目平均 (%)を男女別に算出したもの

出典：内閣府 令和4年度 性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）に関する調査研究

性別役割意識・経験Ⅱ（結婚に対する価値観の相違）(表4①②③)

- 「女性は結婚によって、経済的に安定を得るほうが良い」は、性年代別で大きな差はないが、いずれの層も一定数みられる。
- そのように「直接言われた」あるいは「言動や態度から感じた」経験は、男性より女性の方が多く、女性は年代が高くなるほどそう感じさせられた割合が高い。また、女性は50～60代で特に多い。
- 直接または間接的にそう感じさせた人として、女性は「母親」が1位で、次いで「父親」となっており、同性の知人・友人や親せきが上位に入っている。

表4 性別役割意識・経験Ⅱ（結婚に対する価値観の相違「女性は結婚によって、経済的に安定を得る方がよい」）



出典：内閣府 令和4年度 性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）に関する調査研究

**\* 日常の中で「これは私のアンコンシャス・バイアスかも…？」と気づくことで、1人ひとりの考えを尊重し、無意識に他人を傷つける行為を減らすことができるのかもしれない。その先に、性別・年齢・国籍・宗教・障がい・貧富の差や考え方にとらわれず、個々の力を発揮できる社会へと変革していけるのだと思います。**



パープルリボンのようなシンボルカラーリボンはほかにもたくさんあります。これらを「アウェアネス (Awareness) マーク」といい社会問題や難病に対して、世界で統一した色のリボンを身につけ支援を表明します。アウェアネスは「意識・気づき」という意味の英語です。そのため、直訳で「気づきのリボン」と呼びます。“リボンマーク”の一例を紹介します。これらの色と意味...あなたはいくつ知っていますか？



(解答は4面にあります。)